



## I. 実施概要とスケジュール

福岡教育大学での対話は、前回の2011.2.16から1年ぶりの開催となった。

前回の対話の約1ヵ月後に、福島事故が起こり、結果として、原子力に対する学生諸君の期待を裏切った形になってしまい、シニアとして申し訳なく思っていた。

それにも関わらず、福岡教育大学の大後先生、九州女子大学の中村先生のご尽力により、再び「対話イン福岡教育大学」が開催できたことについては誠に感謝に耐えない。

今回は、時間の制約もあって、あらかじめ、学生諸君から質問を出してもらい、それに対して包括的に基調講演で回答し、引き続き、グループ毎の対話でも学生からの質問にシニアが答える方式をとった。従って、従来のファシリテータ方式でなく、学生リーダーによる議事進行となった。

(1) 日時：平成24年2月13日(月) 13:00～16:30

(2) 会場：福岡教育大学・理科大講義室

(3) 出席者：

○学生：福岡教育大学(教育学部)：21名(1年：2名、4年：18名、修士1年：1名)  
／ 男子12名、女子9名)

九州女子大学：3名(4年)

○教員：4名(大後忠志、三谷尚、松崎昌之、長山芳子)

○シニア：9名(金氏顯\*、工藤和彦\*、桑野剛士\*、佐伯仁\*、中村重太\*、  
成國兼喜\*、松岡信明\*、米永國照\*、若杉和彦\*\*)

—：初参加者、\*：SNW九州、\*\*：東京

(4) タイムスケジュール (担当) :

- ・ 13 : 00～13 : 10 開会の挨拶 (大後先生)、参加シニアの紹介 (米永國照)
- ・ 13 : 10～14 : 15 基調講演 (工藤和彦)
- ・ 14 : 25～15 : 30 グループ対話 (学生&シニア)
- ・ 15 : 30～15 : 45 グループ対話内容のまとめ (学生)
- ・ 15 : 45～16 : 15 グループ別発表 (学生)
- ・ 15 : 15～16 : 30 講評 (若杉和彦&金氏顯)、閉会の挨拶 (工藤和彦)

(5) 配布資料 :

- ① 基調講演資料 (「福島原子力発電所事故と今後のエネルギー」)
- ② シニアメンバー表
- ③ 事後アンケート

## II. 開会挨拶

### <大後先生>

本日は、それぞれの専門性を持ったシニアが参加しているので、学生諸君は積極的に意見をぶっつけ、日頃持っている疑問点の解消に努めて欲しいとの挨拶があった。

## III. 基調講演

### <工藤和彦>

「福島原子力発電所事故と今後のエネルギー」と題し、次の内容で基調講演をした。

- ① 原子力発電の基礎
- ② 安全確保のしくみ
- ③ 福島第一原子力発電所事故の概要
- ④ エネルギー問題の現状と展望

## IV. グループ対話と発表

下記4グループに分かれて対話を実施した。人員構成は、各グループ共、学生4名、シニア2名である。各グループのリーダーは学生が務めた。対話終了後、グループ別に学生がまとめの発表を行なった。

### 第1グループ：「学校教育の中に取り入れるべき原子力エネルギーや原子力発電に関する基礎知識とは何か？」

- ・ 学生：福岡教育大3人 (男性1人、女性2人)、九州女子大3人 (女性)
- ・ 担当シニア：桑野剛士、米永國照
- ・ 状況： ファシリテータは、女子学生の一人が務めました。本題に入る前に原発に関する質問が二つほど。原子力が全部止まっても停電もなくいつているのはどう考えたらよいか。原発のメリットデメリットは。本題の中で質問では目に見えないの

で怖いイメージがある、また、利益を得る人とリスクを負う人が違う気がする。という意見が出ました。しかし概ね負のイメージは持っていない。原子力発電所に見学に行った経験などから大丈夫と思っている。というようなことでした。また、小学生に話すときも ことさら原子力と言わないで身の回りにある発電設備のひとつ、放射線だっていくらでも飛んでいると身の周りの話から自然に入っていくことが良いという話に納得していたようです。後は、知識は後付けで学べるが、ものの考え方、相対的に考えることなどに重点を置くべきだとアドバイスしました。その後はファシリテータがうまくまとめ 発表して終わりました。

## 第2グループ：「学校教育の中に取り入れるべき放射性物質や放射線に関する基礎知識とは何か？」

- ・学生：福岡教育大6人（男性4人、女性2人）
- ・担当シニア：松岡信明、成國兼喜
- ・状況： 対話への期待や知りたいこととして、①放射線・放射能の違いや基礎知識、②放射線・放射能に由来するいじめや風評被害、③子供への教え方、④放射線・放射能によってもたらされる不利益と便益、⑤原子力の知識、⑥世界の原子力の動向、などがありました。

①については用意した資料と GM 式サーベイメーターによる実演を通じて、よく理解していただいたと思います。この種の説明にはわかりやすい資料と実演が有効であると改めて感じました。正しい知識をもって判断しないので②の問題が発生するということまで学生の方々が理解したようです。③についても、今回の実演や資料を通して、基本は身近なもので分かりやすく説明することが大切であることを実感してくれたと思います。④については、胃がんの集団検診や小学校における胸部エックス線撮影の例をあげて、放射線利用の便益と不利益のバランスについて説明しました。ALARA の考え方にも言及しましたが、理解が得られなかったかひとつ不安です。⑤について、再生可能エネルギーと原子力の長所・短所の説明などを行い、その上で原子力が今後も一定の役割を担うべきであるとの意見を述べました。ただ、福島第一の事故を受け、再生可能エネルギーに一定の役割を持たせることに反対するものではないことも付け加えました。これらについて学生から否定的あるいは懐疑的な意見はありませんでした。

## 第3グループ：「福島第一原子力発電所の原子炉の事故処理の現状と今後について」

- ・学生：福岡教育大6人（男性4人、女性2人）
- ・担当シニア：金氏顯、工藤和彦
- ・状況： 学生の進行役により、全員の自己紹介の後、まず学生から一人ずつ質問、疑問（テーマ以外のことも OK）を出してもらい、次の様にテーマごとに班長がまとめた。  
①原子力の安全性、②PWR と BWR、③原子力発電所の設置場所（海岸以外は？）、  
④プルサーマル（目的と安全性等）、⑤事故の影響（健康被害、土地等）、⑥原子炉

の耐用年数（40年の根拠等）、⑦福島の後（復興のアイデア等）、⑧代替エネルギー（可能性等）

一つずつのテーマに関してシニア二人から要点を口頭で説明、皆真剣に聞いていた。1時間余りの短時間だったが幅広い原子力の事を知るポイントを理解してくれたことと思う。発表も進行役が要領よく纏めて報告した。質問は特になかった。

#### 第4グループ：「原子力エネルギーと代替エネルギーについて」

- ・学生：福岡教育大6人（男性3人、女性3人）
- ・担当シニア：佐伯仁、若杉和彦
- ・状況：本グループのテーマである「代替エネルギーが原子力に取って変われるか」を討論するに当たって、まず、現在代替エネルギーと考えられる太陽光、風力、地熱等のそれぞれの長短所について学生たちに理解を深めていただくよう、シニア側が質問に応じるという形で対話をスタートした。学生たちがある程度予備知識を得た上で、限定された時間ではあったが今後のエネルギー選択肢について全員で議論した。討論中、シニア側はニュートラルであり、積極的な反論あるいはニューアイデアを求め続けた。学生たちの意見集約結果は次のとおり。

①現時点で代替エネルギー（クリーンエネルギー）は原子力に取って変わることはできない。ただし、代替エネルギーの拡大と技術開発は今後も推進しなければならない。

②消費するエネルギーの総量を減らす工夫が必要である。（省エネ）

③原子力エネルギーを容認するには、リスクの大きさが自分たちの生活に許容できる程度でなければならない。ここで、リスクの大きさに対する理解を深めるため、私たちはもっと原子力等について知識を習得しなければならない。

なお、女子学生がグループ班長を務めて対話を積極的にリードし、最後のまとめ報告も行った。

#### V. 講評

<若杉和彦>

今日は多数参加いただき、大変有意義な対話会になりました。特に開会の挨拶から始まって、最後の発表まで女子学生が積極的に活躍してくれました。また、熱心に指導された大後先生はじめ福岡教育大関係者に感謝申し上げます。

グループ1では学校教育の中に採り入れるべき原子力エネルギーや原発に関する基礎知識について議論され、身の回りの放射線や放射能から入って勉強していくことが必要、また、エネルギー問題について自分で考え、自分の意見が言えることが必要と対話されました。重要なテーマですが、着実に進められると思います。グループ2では同じく放射性物質や放射線に関する基礎知識について議論され、「ほたる」の絵を使った放射能と放射線の違い、ベクレルとシーベルトの意味、安全係数の話、GM管による測定方法等について対話されました。図表等理解し易い方法を教育に活用することが大変効果的だと思います。グループ3では福

島原発事故の処理の現状と今後について議論され、BWRとPWRの違いや廃炉の意味、プルトニウムを燃料にすること等について勉強し、これからは安全性に重点をおくべきと対話されました。最後の「皆さんのアイデアが福島を救う」との話は感銘的でした。グループ4では原子力と代替エネルギーについて議論され、太陽光や風力等の代替エネルギーは量的に限りがあること、しかし今後のために研究開発は進めるべきであること、当面原子力だが、リスクの大きさを明確にすべきこと等の対話がありました。大切な問題ですが、皆さん真剣に勉強し、理解してくれたと思います。

全体の印象としては、特に女子学生はじめ皆さんが積極的に役割分担して活躍され、良い経験になったと思います。また、テレビ等で全国的に有名な工藤先生の基調講演で勉強することが出来たことを含め、今回のエネルギーと原子力の学習会は大変有意義な機会であったと思います。

最後に先日産経新聞で石原都知事がこのように言っています。”豊かな生活を支えるエネルギー量に関する確たる計量も代案もなしに、人知の所産を頭から否定してかかる姿勢は社会全体にとって危険なものでしかない”。これは原子力のことを言っていると思いますが、皆さんは原子力以外のオプションも入れていいですが、これからの大切なエネルギーをどうするか自分の頭で考え、自分の意見を持ってほしいと思います。今日はありがとうございました。

#### <金氏顯>

まず今回の東電福島第一原子力発電所の事故はこれまで原子力の日本への導入、九州への導入を進めてきた私達シニアにとって、痛恨の事故であり、これを反省して原子力界はより安全なものにし、国民の皆様の信頼を回復することが求められています。

福岡教育大では昨年2月16日に初めて対話会を開催し、私が基調講演をしましたがその1カ月も経たない3月11日に事故が発生しました。私はこの大学には足を踏み入れられないものと思っていましたが、今日皆さまにこうしてお話し出来たことを大変嬉しく思います。

事故から1年近く経とうとしていますが、低レベル放射線の健康被害について過剰にその危険性を煽る一部の学者やマスコミのせいで地元や多くの国民が感情的に原子力忌避に陥っています。一時の忌避感情で将来の我が国のエネルギー選択を間違っはけません。子供達に客観的、科学的な知識を教えて、メディアリテラシーを涵養し、正しい判断が出来るようにすることが皆さん達教育者の務めです。

今低レベル放射線を過剰に怖がり、感情的原子力忌避になっているのは女性が男性より断然多いのが事実です。今日の対話では受け付けも司会も班長も発表者も全部女性でした。女性が女性に語るのが最も効果的ですから、教員になってからも頑張って下さい。

## VI. 閉会挨拶

#### <工藤和彦>

学生さんたちが積極的に対話に参加してくれたことに感謝する。特に女性が活発に活動していたことが印象的であった。

## VII. 参加シニアの感想

### <金氏顯>

昨年の2月16日に福岡教育大で初めての対話会を行い、私は基調講演を行いました。今その講演PPTを見直してみますと、安全性に関して、自己制御性、深層防護、5重の壁、安全規制の仕組み、放射能は正しく怖がること、などを説明しています。勿論“絶対事故は起こらない”などと説明はしていませんが、私の話しを聞いた学生は素直に”原子力は安全だ“と思ったことと思います。その記憶がまだまだ生々しい1カ月も経たないうちに事故が起き、深層防護は防護ならず、5つの壁も次々破られ、3つの原子炉で炉心が熔融し、水素爆発で放射能が広く拡散、土地を汚染、住民避難・・・と最悪の事態になりました。学生達は、あの時に聞いた話は何だったのだろうか？と大きな疑問を持ったことと思います。

もうこの大学では対話会の開催は難しいと思っていましたが、中村重太先生と大後先生のお陰で開催することが出来、まず私は個人的に安堵しました、両先生には深く感謝申し上げます。そして会は23名と言う昨年並み、かつ九州女子大からも4名参加、参加者はこれまでのように大人しくシニアの説明を聞くだけでなく、自ら疑問質問を沢山投げかけ、知りたい意欲は当然のことながら事故前より高く、エネルギー選択という自らの判断、また次世代の判断に必要な知識は何か？を学ぶ姿勢は真剣なものを感じました。そして女性パワーにも大いに期待したいと思います。

今回は理科系が大半だったが、来年度はもっと対象を学内広く、更に九州女子大では単独開催も、ぜひ実現したい。中村先生と大後先生には引き続きよろしく申し上げます。

### <工藤和彦>

今回の参加者は教育大学の4年生で、小中学校の教職課程に在籍しているものが主である。最初の1時間は私が基調講演を行ったが、スライドの枚数(77枚)がやや多かったので、説明が不十分であったことを反省している。後半のエネルギーや原子力発電、新エネルギーについてもっと丁寧に話すべきであった。

対話時には、原子力の安全性、福島事故の原因・影響、廃炉など約10項目の質問が出て活発な意見交換ができた。

4つのグループから多くの項目について報告がされたが、短時間でよく整理していたと思う。発表は書画カメラを使って手書きの資料で行われた。手書きは読みにくいものもあるが、短時間でまとめるにはパソコンより手軽かもしれない。

参加者はほぼ男女半々であったのに、4グループの発表者が全員女子学生で、それぞれ元気いっぱい発表していたのが特に印象的であった。

### <桑野剛士>

私にとって2回目の対話活動でした。学生の皆さんは考え方もしっかりしていてマスコミの報道など鵜呑みにせず自分で考えるということを実感しているようでした。9人で1時間の対話では少し短すぎる気がしました。少なくとも90分は必要かなと思います。若い人たちと会社のことでなく教育のことなど話し合える機会などめったにあるものではありません。

短い時間でしたが有意義な対話だったと思います。

#### <佐伯仁>

このような対話会は今回で2回目でしたが、前回の金氏氏、今回の工藤先生と貴重な基調講演を直接聞くことが出来て学生の皆さんにはもちろんですが、私にとっても大変よかったですと思っています。

また、学生たちへの事前アンケートの集約結果を見て、エネルギーに関する認知度を少々心配していましたが、全くの杞憂だったというのが率直な感想です。

グループ討議で、私が「風力は運開後も意外と金がかかるのですよ」と言うと「北海道のある村で修繕費が出せなくて放置された風力があること」を知っていたし、「太陽光のパネルは結構汚れるのですよ」と言うと「汚損を監視・計測して清掃を提案する会社がある」と答えるなどよく知っていました。3、11以降、エネルギーに対する国民の意識、関心度が変わったのも事実のようです。エネルギーに関心を持ちさえすれば、自ずと原子力の是非については理解が進むものと信じています。このような方々が将来、学校の先生になったら前途有望だと思ったのですが、残念ながら、私のグループは殆ど環境学科の学生で、教職にはつかないそうです。

限られた時間の中で、過去のエネルギー関連業務の経験を話し尽くせなかった思いはありますが、若い人たちと話をすると新しく社会に出て頑張るよう激励に行ったつもりが、逆にこちらが元気をもらったような気がします。

#### <中村重太>

シニアとのこの対話会が、2月13日（月）午後には実施できたことは、これを企んだ（？）者として、大いに安堵した。あの3月11日の東日本の地震・津波に伴う原発事故は、昨年2月に福岡教育大学で開催した対話会の直後でもあり、それに参加した学生や教員からは、それまで抱いていた安心感への反動が強く感じられ、今年の開催を危ぶんだ。しかし、だからこそその必要性を感じていた教員や学生もいて、私の呼びかけに共感してくれて、実に驚くほどの協力を得た。

当日は、参加した学生数も当初の目標の20名を超し、関心のある教員も4名も顔を出してくれた。工藤教授の講演にも熱心にメモをとったり、対話終了の指示も聞き入れてもらえないほどに熱心に話しあったりして、参加者の満足度は良かったようです。

この度の対話会では、原子力発電や放射能などについて基礎基本的な知識や理解を得て、社会的な見方考え方も持ってもらえたことも成果であったが、これから社会現場で活躍する学生が、一つ催し物が実施されるその裏で、どのような人々が、どのような形で関わり合って実施されるかを、また、遠路を駆けつけてくださったシニアの方々がどのような信念を持って活動されているかを、実体験することによって直に認識できたことが、私としては大きな派生的効果であり、隠れた成果であったと感じている。

参加した学生は、ほとんどが学校教師を志望している。これを機に、原子力や放射線に関心を高め、主体的に情報を求めて学びあい、自らの幅広い見方考え方を形成して、子どもや家庭、地域にかかわっていってもらえると期待している。

#### <成國兼喜>

学生さんたちは、みなさんまじめに参加されていました。しかし、対話の時間が少し不足したためか、学生さんたちの理解度が分かりませんでした。シニアからのプレゼンや説明が多すぎたように思います。対話の時間をもっと増やして、学生さんたちの発言時間をもっと与えた方がいいように感じました。

#### <松岡信明>

4つのグループに分かれての対話集会で、大変熱心な議論がなされたと思っています。教育大学は女子学生が多く、また教員として次世代層に接していくであろうことを考えると、有意義な対話であったと思います。

私が担当したグループは理科教育専攻の学生が多く、その意味では理解が早かったと思います。理解していただける学生には出来るだけ多くの機会を提供することが大切であると感じました。

参加者の男女比率は半々だったと思いますが、4つのグループの報告はすべて女子学生が行い、これも時流なのかと感じました。原子力の必要性や工学的な部分の理解促進はともかく、放射線・放射能に関する啓発の意味合いは女子学生においてより大きいのではないかと感じております。

#### <米永國照>

このグループは学生6人の内、5人が女性である。女性のグループリーダーの司会で対話が始まった。この司会者はなかなか話の運びがうまく、しっかりポイントを押さえて議事進行を行なう。それでも、最初の頃は、皆さんおとなしくなかなか意見が出ない。学生からの意見が出ないと、ついシニアがしゃべってしまう。しかし、今日は、我々シニアは前面に出ないことにしているので、自重する。そのうち時間が経っていくと学生さんの口も滑らかになりいろいろ質問が出るようになり、対話が軌道になった。しかし、軌道に乗ったところで時間が迫り、残念ながら不完全燃焼になってしまった。それでも、対話終了後の発表では、リーダーが率なくまとめてくれた。感謝する。

#### <若杉和彦>

私はグループ4に参加し、佐伯氏とともに福岡教育大の学生6名とテーマ「原子力エネルギーと代替エネルギーについて」について対話した。テレビ、新聞等のマスメディアが再生可能エネルギーや自然エネルギーを大きく宣伝しているため、学生は原子力よりもむしろそちらの方向に進むべきではないか、それに頼れるのではないかとの素朴な感覚を持っていたようだ。しかし、対話会前の工藤先生の基調講演から得た知識、我々シニアからの説明を聞いて



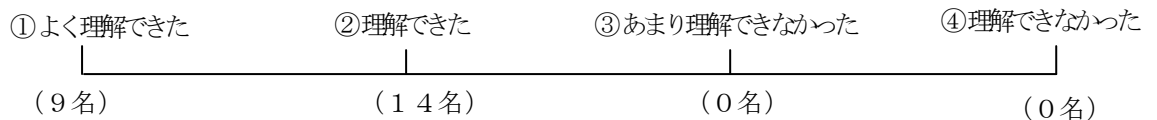
て、再生可能エネルギーや自然エネルギーは大いに研究開発すべきだが、量的に過大評価すべきでないこと、当面原子力エネルギーに頼らざるを得ないこと、放射線は世間が恐れる程怖くないこと等を理解してくれたと思う。対話は女学生の班長の下でスムーズに進行し、開会の挨拶や対話後の学生の発表でも女学生がすべて自主的に行い、今後の展開に明るい期待感を持てた。また、最後の講評では、私から石原都知事の産経新聞の記事”豊かな生活を支えるエネルギー量に関する確たる計量も代案もなしに、人知の所産を頭から否定してかかる姿勢は社会全体にとって危険なものでしかない”を引用し、重要なエネルギー問題を自分自身で考え、自分自身の意見を持って欲しい旨話した。

このような実り多い対話会を計画し、実行された福岡教育大とSNW九州関係の皆様には厚く感謝申し上げたい。

## VIII. 事後アンケート結果（23名分）

### 1. 講演について

(1) 話の内容は理解できましたか？



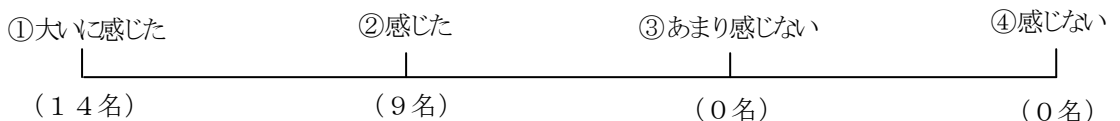
理由：・図、表、写真が多くて分かりやすかった (①)  
 ・わかりやすく説明してくれたから (②)

(2) 講演の題材で「このようなことを聞きたい」というものがあれば書いてください？

- ・放射線の子供に対する影響（精神面含む）。
- ・時事問題を子供の学習にどのように導入すればよいか。
- ・使用済み燃料の処理の仕方。
- ・原子力がない場合の生活シュミレーション。

### 2. エネルギー教育の実施について

(1) 今回のワークショップで学校における「エネルギー教育」の必要性についてどのように感じましたか？



理由：・知らない、自分で正しいか正しくないかを判断することができないし、マスコミ等の情報に惑わされてしまうから (①)  
 ・風評被害など誤った知識を持っている人が多いと思うから。(①)

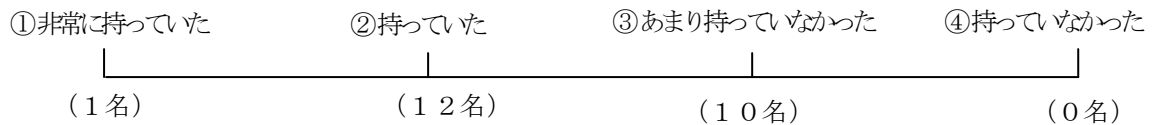
- ・知識が無いので、無駄な不安にかられるので (①)
- ・次代を担う子供たちが、エネルギーのことについての正しい知識を身に付けなければ、日本がだめになると思ったから (②)
- ・表面的な知識だけで良い悪いを判断してしまっていたから (②)
- ・原子力発電に代わるものを早急に見つけるべきだと思ったから (②)

(2) エネルギー教育プログラムを作るとしたら、どのような情報、資料、教材を要望しますか？

- ・一日の電気代、電力量等身近なイメージが付きやすいもの。
- ・放射線測定の実演 (GM管、霧箱)
- ・自分たちで動かせる模型など具体的な事物

### 3. ワークショップについて

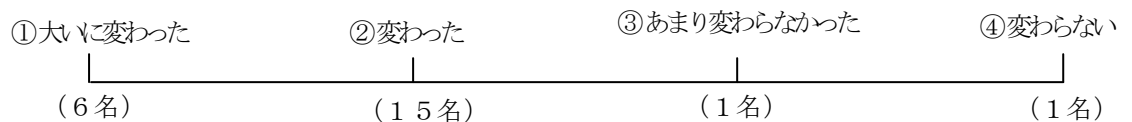
(1) ワークショップの前にエネルギー問題に対する危機意識を持っていましたか？



理由：・いつまでたっても資源の枯渇という問題の解決の道筋がみえないから (①)

- ・大学で研究していく中で危機意識をもっていた (②)
- ・ニュースなどでよく取り上げられていたから (②)
- ・福島の件があったため (②)
- ・福島は遠いという感じもあって、あまり実感がなかったから (③)
- ・エネルギー問題は難しい話と思っていたから (③)
- ・学習したときは関心が高いが、時間が経つと意識が薄れてしまうため (③)
- ・電力不足があまり目に見えていなかったから (③)

(2) ワークショップの後にエネルギー問題に対する危機意識に変化はありましたか？その理由は？

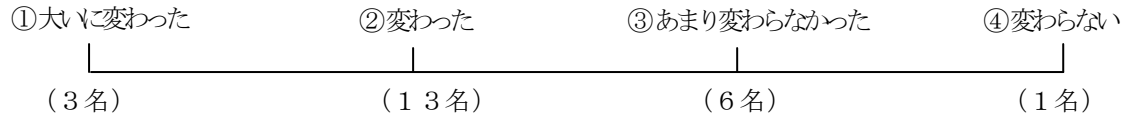


理由：・正しい知識を持つことで、正しい危機意識 (不安ではなく、具体的な行動ができるまで) を持つ必要を感じた (①)

- ・自分の問題として、考え、意見を持たないと子供たちに何も伝えることができないと感じた (①)
- ・リスクの難しさについて考えさせられた (①)
- ・代替エネルギーが予想より難しいことがわかった (②)

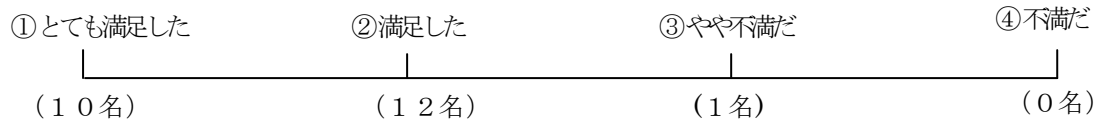
・エネルギーがなくなると人間は生きていけないと感じた (②)

(3) ワークショップの後に原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？



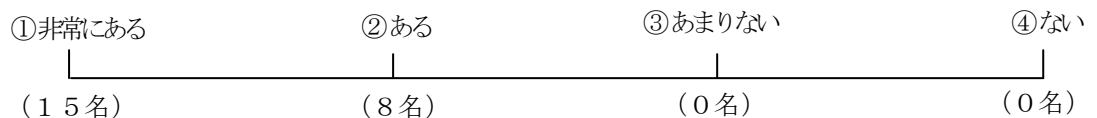
- 理由：・自分が思っていたよりずっと安全だとわかったから (②)
- ・やはり原発は必要だなあと (②)
  - ・原子力のリスクばかり目が行っていたが、何の技術にもリスクがあることに気がついたから (②)
  - ・メリット、デメリットが明確になったから (②)
  - ・やはり怖いものだと思ったから (②)
  - ・元々あまり負のイメージを持っていなかったため (③)
  - ・原子力に関しては今日新しく知ることがあまりなかったので (④)

(4) ワークショップの内容は満足いくものでした？ その理由は？



- 理由：・視野や考え方が広がったし、原発に対して考えるきっかけになったから (①)
- ・非常に丁寧な説明を受けることができ、新しく得た情報が多かったから (②)
  - ・専門家の方の意見を聞いたこと、周りの意見がわかったから (②)
  - ・自分の疑問を解消できたので (②)
  - ・もっと時間が欲しかった (③)

(5) 今回のようなワークショップの必要性についてどのように感じますか？その理由は？

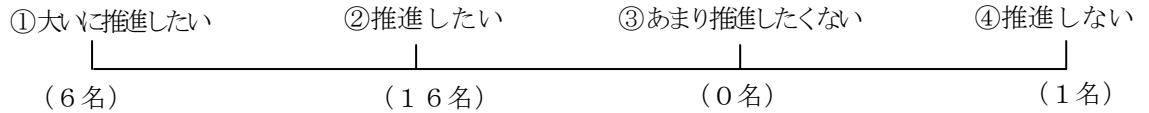


- 理由：・意見交換することで、知識が深まり、考え方も深まるから (①)
- ・考えても、討論するほどの機会がないため (①)
  - ・自分の意見を明確にする場だから (①)
  - ・話し合う内に、新たな疑問が生まれたり、関心、興味が高まった (①)
  - ・自分の考えを人に伝えることはとても大変なコミュニケーション能力だと思うから (②)

・疑問をとことん聞くことができるので (2)

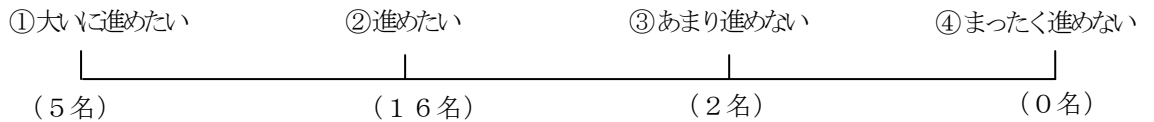
#### 4. エネルギー教育に関する考え

(1) 今後「エネルギー教育」を推進したいと考えますか？



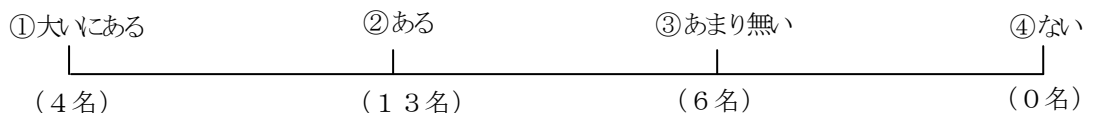
- 理由：・日本が抱える問題だから (2)  
・風評被害をなくしたいと考えるため (2)  
・便利な生活にエネルギーは不可欠だから (2)  
・自分はエネルギー教育に携わらないから (4)

(2) 今後「エネルギー教育の研究」を進めたいと考えますか？



- 理由：・教員として、子供たちにエネルギーの大切さを伝えて生きたいから (2)  
・大事なことなので (2)  
・別な分野に興味があるから (3)

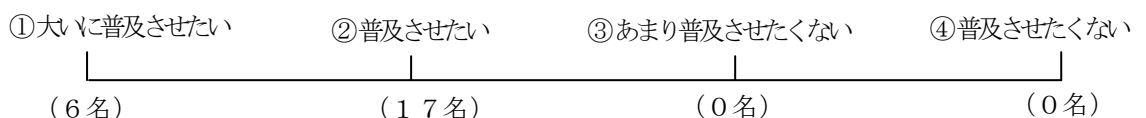
(3) 「エネルギー」や「エネルギー教育」について、他の研修を受ける希望はありますか？



【具体的な研修の種類、名称をお書きください】

- ・今回のようなワークショップが受けたい (2)
- ・多くの人の意見を聞きたいため (2)
- ・子供に対する指導法の模擬授業など (2)
- ・代替エネルギーについて (2)
- ・エネルギーよりも原子力に関して学習したい (3)

(4) 他の学生や教員に「エネルギー教育」を普及させたいと考えますか？



- 理由：・生活に密着したことだから (①)
- ・教育する者がきちんと知っておかないと、正しい知識が伝わらないから (②)
  - ・誰もが避けては通れない問題だと思います (②)
  - ・一人でも多くの方がこの問題を考えて欲しいから (②)

5. 「教育学部の学生とシニアの対話：ワークショップ」の在り方、改善点など自由に記載してください。

- ・教材を予習してきて、皆が意見を交換すればより良いものになりました。
- ・シニアの方がひたすらしゃべり倒して、学生はほとんどしゃべっていないところ(苦笑)。
- ・時間が短かった。対話を行なう人数が多かった。

## IX. 対話の風景



開会挨拶 (大後先生)



基調講演 (工藤和彦)



対話中 (第1グループ)



対話中 (第2グループ)



対話中 (第3グループ)



対話中 (第4グループ)



まとめ発表(第1グループ)



まとめ発表(第2グループ)



まとめ発表(第3グループ)



まとめ発表(第4グループ)

以上